

台風第17号の接近に伴う農作物等の管理対策

令和元年9月20日
新潟県農林水産部

気象庁が9月20日9時45分に発表した「台風5日進路予報」によると、台風第17号は日本海を北東に進み、23日に本県に最接近する見込みです。また、新潟地方気象台が9月20日11時00分に発表した「北陸地方週間天気予報」によると、新潟県内では23日に最高気温が32℃と高くなる見込みです。

今後の台風情報を確認し、農作物等の管理に注意してください。また、台風により荒天となった場合は、安全のため、ほ場や水路等の見回りは行わないようにしてください。

1 水稻

【事前対策】

- (1) 収穫期を迎えているほ場は、可能な限り収穫を進める。
- (2) 収穫までまだ間があり、大雨が予想される場合は、ほ場の停滞水を迅速に排除するため、排水路の整備・点検を実施する。

【事後対策】

- (1) 収穫前のほ場が浸・冠水した場合は、できるだけ早く排水する。穂先まで冠水したほ場は、特に排水を急ぐ。
- (2) 大雨や強風によって倒伏が進んだ場合は、穂発芽等による品質低下を防止するため、ほ場排水を進めながら、早めに収穫する。
- (3) 収穫時の籾水分が高い場合は、収穫後できるだけ早く乾燥機に張り込み、通風による生籾の変質を防止するとともに、設定温度を下げて乾燥する。
- (4) 成熟期頃にフェーン現象に遭遇し、籾水分が急激に低下した場合は、立毛中でも胴割が助長されることから、できるだけ早く収穫する。また、乾燥作業は、乾燥速度（毎時乾減水分）が0.5%以下になるよう送風温度を低く設定し、胴割粒の発生を防止する。

2 大豆

【事前対策】

排水路及びほ場内の排水溝の整備・点検を実施する。

【事後対策】

- (1) 浸・冠水した場合は、湿害による品質低下や枯死を防止するため、できるだけ早く排水する。
- (2) 茎や葉、莢が損傷を受けた場合は、腐敗粒等が発生しやすくなるので、収穫が遅れないよう注意する。

3 そば

【事前対策】

排水路及びほ場内の排水溝の点検・整備を行う。

【事後対策】

ほ場内に停滞水が生じたら、迅速な排水に努める。

4 園芸全般

【事前対策】

- (1) 収穫期にある園芸作物（なし、ぶどう、ねぎ、ユリ切り花等）は、可能な限り収穫する。
- (2) フェーン現象が予想される場合は、ほ場やポット・トレイの乾燥及び作物の脱水症状を防ぐため、朝夕の涼しい時間帯にかん水する。特に砂丘地では、飛砂防止も兼ねて風が強くなる前からスプリンクラー等で十分にかん水する。
- (3) 樹園地や施設の防風網、支柱・支線及び誘引結束、ほ場のマルチ等を点検・補強する。
- (4) 施設（ハウス、雨よけなど）のビニール類を強風から保護するため、マイカー線の点検・補強、らせん杭等の固定資材の確認を行うとともに、換気扇や天窓が強風で飛ばされないよう補強する。
- (5) 台風通過中は、ハウス被覆資材のばたつきを防ぐため、ハウスを密封し換気扇を稼働させる。
- (6) 大雨が予想される場合は、長時間の滞水を避けるため、ほ場内及び周辺の溝切り等排水対策を徹底する。

【事後対策】

- (1) フェーン現象の影響で脱水症状が見られる作物は、速やかにかん水する。
- (2) 倒伏した作物で回復が見込まれるものは速やかに引き起こし、土寄せ、かん水する。
- (3) 強風で傷んだ茎葉は病気が感染するおそれがあるため除去し、適切な薬剤散布により病害の発生防止に努める。
- (4) 枝・葉ずれ等の被害が発生したほ場では、収穫物の選果・選別に留意する。
- (5) 施設、支柱・支線、誘引結束等を点検し、破損箇所は速やかに補修する。
- (6) ほ場内の停滞水は根腐れ等の原因となるため、速やかに排水する。

5 野菜

【事前対策】

- (1) 強風等が予想される場合は、ねぎ等で倒伏及び茎折れを防ぐため、土寄せを行う。
なお、土寄せは、ブロッコリー、カリフラワー、キャベツで出蕾期または結球期に入っているほ場を除いて実施する。
- (2) 露地で育苗中のものは、葉の損傷を防ぐため、べたがけ資材を被覆する。
- (3) フェーンが予想される場合は、茎葉の脱水症状を防ぐため、朝夕の涼しい時間帯にかん水する。特に砂丘地で降雨が見込まれない場合は、飛砂防止を兼ねて、風が吹いている間は、強風になる前からスプリンクラー等で十分にかん水する。

【事後対策】

- (1) 露地野菜が倒伏した場合、アスパラガス等は速やかに支柱に誘引する。ねぎが倒伏した場合は、曲がりやを防止するため、早急に起こして土寄せする。
- (2) 強風雨に遭遇した収穫中の果菜類は、草勢低下を防ぐため、早めに収穫・摘果する。
- (3) 砂丘地において潮風となった場合、風が弱まり次第スプリンクラーで速やかにかん水する。

- (4) 施設野菜等で施設内に浸水した場合は、換気を十分行い、土壌の乾燥を図る。また、マルチ内が過湿状態の場合は、一次的にマルチの裾をめくり、乾燥を促す。特に果菜類では、根傷みによる草勢低下を防ぐため、遮光資材を利用して急激な温度上昇を防止するとともに、摘果により着果負担を軽減する。
- (5) 茎葉が損傷した場合は、病害防止と草勢回復のため、薬剤散布や液肥の葉面散布を行う。

6 果樹

【事前対策】

潮風を伴った強風の場合、散水による塩分の洗い流しが有効なので、事前に散水の準備をしておく。

【事後対策】

- (1) 枝が折損した場合は、切り直して保護剤を塗布する。
- (2) 主枝分岐部等の太枝が裂開した場合は、被害程度に応じて切除するかボルト等で接合し、保護剤を塗布する。
- (3) 倒伏した樹を引き起こす場合は、残った根を傷めないよう慎重に作業を行う。また、断根の程度に応じて地上部を切りつめる。
- (4) 強風や潮風による落葉が著しい場合、品質低下を防ぐため、障害果を優先して摘果し、適正な葉果比を維持する。また、収穫まで1か月以上ある樹種（品種）では、落葉が著しくなくても、程度に応じて同様の対応を行う。
- (5) 潮風を伴った場合は、直ちに鉄砲ノズルやスプリンクラーによる散水を実施する。

7 花き

【事前対策】

強風が予想される場合は、露地切り花では茎葉のスレを防止するため、必要に応じてネットを下げる。また、雨よけ施設ではビニールや遮光資材を外しておく。

【事後対策】

- (1) 倒伏した株は、茎や花穂の曲がり防止するため、風が止んだら早急に立て直す。
- (2) 冠水・浸水により茎葉が汚れた場合は、ほ場の排水に努めるとともに、可能な限り速やかに散水等で汚れを落とす。
- (3) 施設が被災した場合は、速やかに作動点検を行う。特に、キク等の栽培に係る電照・補光関連装備（電球、タイマー等）は、作動点検及び修理を急ぐ。
- (4) フェーン現象となり高温時に切り花を収穫した場合は、花しみ障害等の発生を防止するため、速やかに涼しい場所で水揚げを行い、蒸散の抑制と品温の低下を図る。

8 畜産

【事前対策】

- (1) 強風が予想される場合は、畜舎の破損を防ぐため窓や扉等を補強する。特にハウス畜舎等簡易な施設は、補強を確実にを行う。また、放牧中の牛は安全な施設、場所に避難させる。
- (2) 被災時には自家発電機による搾乳や生乳冷却等が速やかにできるよう、予め停電や断水等の対応を確認する。
- (3) 畜舎への雨水の浸入により、配合飼料・乾草等が、濡れて変敗しないよう、安全な場所へ移動する。

- (4) 畜舎への浸水等を想定し、事前に避難場所を確認するとともに、状況に応じて家畜を避難させる等の適切な処置を行う。
- (5) ほ場から搬出していない牧草のラップサイレージ等、調製済みのロールペールは、水はけの良い場所に搬出し、縦置きにする。
- (6) フェーンが予想される場合は、熱射病等の家畜疾病を防ぐため、密飼いを避け、送風機、細霧システム等の暑熱対策を徹底し、家畜の体感温度の低下に努める。また、給餌による急激な体温の上昇を防ぐため、多回数給与や朝・晩の涼しい時期に給与し、新鮮な水を常に十分飲水できるようにする。

【事後対策】

- (1) 畜舎への浸水があった場合は、排水に努め、水が引いた後、速やかに畜舎、設備器具の水洗、乾燥、消毒を実施する。特に搾乳機器は点検を行い、消毒等の衛生対策を徹底する。
- (2) 冠水や浸水等の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努める。
- (3) 熱射病等により家畜に急激な体調の変化が見られる場合は、速やかに獣医師の診療を受ける。また、家畜の死亡被害があった時は、速やかに化製場に搬入する等の確な処理を行う。

9 きのこと

【事前対策】

- (1) 強風が予想される場合は、施設（ハウス、雨よけ等）の戸締まり・点検を十分に行い、損壊等が生じないように保護・補強に努める。
- (2) 屋外に保管してある資材類（おが粉等）が飛散しないよう、被覆等の適切な管理を行い、移動が可能な資材については屋内に移動させる。
- (3) 大雨が予想される場合は、施設等への雨水の浸水を防ぐとともに、資材類を安全な場所に移動する。

【事後対策】

- (1) 強風が収まったら速やかに、被害状況の把握に努める。
- (2) 施設に被害があった場合は、速やかに復旧し、きのこの生育環境を確保する。
- (3) 修繕は十分な安全を確保してから実施する。
- (4) 浸水した施設の電気設備は、起動前に十分な点検を行い、漏電事故が発生しないよう注意する。
- (5) 浸水した培養・発生・生育物は速やかに施設外へ搬出し処分する。
- (6) 浸水した施設は、空にして水で泥等を洗浄し、残留性のない薬剤で除菌する。

10 漁業全般

【事前対策】

- (1) 出港前に確実に気象情報等を確認し、荒天が予想される時は出港を中止する。
- (2) 早めの情報入手を心掛け、以後の航海計画・出港予定を見直す。
- (3) 波や風の急変に注意するとともに、早めの帰港を心掛ける。
- (4) 漁船の破損、流出を防ぐため、係留ロープで確実に固定すること。また、必要に応じて漁船を上架すること。
- (5) 漁具や飼育池等の管理に十分注意し、厳重に警戒する。

【事後対策】

- (1) 係留している漁船、漁具や飼育池等を確認する際は、安全を十分確保してから実施

- する。
- (2) 河川から流出した流木などが港内や海上を漂流している場合があるため、出入港、操業時は、周囲の安全を十分確認し、漂流物に接触しないよう注意しながら航行する。